

昔の中国の人々は、空に弧を描く虹に、天翔る龍の姿を見ました。

虹という漢字は、龍の一種をさすことばです。

つかの間、美しい姿を見せ、空に溶けていくように消える虹は、突然空に出現しその雄壮な姿を地上の人々に見せ、やがて空の彼方に消えていく龍のようだと、「虹」と名付けた人々は感じたのでしょ

う。虹は、空気中の水滴に太陽の光が当たるとき、水滴がプリズムとなって、光が分解され複数の色となって現れる現象です。

虹は、水滴の大きさや、光の角度などの条件が整ったとき、はじめて見ることのできる現象で、常に現れるものではありません。

そして、それらの条件が崩れたとき、虹は消えていきます。

条件が整った短い時間、姿を現すものだからこそ、私たちは、虹を目にしたとき、感嘆の声をあげるの

です。さて、「私たちも虹と同じである」と言ったら、唐突に過ぎるでしょうか。

「私たちは、世界を形づくっているさまざまな要素が、仮に結びつき合っているものである」という仏教の存在論があります。

考えてみれば、私たちの体を構成しているものは、地球上のさまざまな物質です。それらが、ある条件のもとに結びつき、私たちとなるのです。そして、時が至り、条件が崩れたとき、その結びつきがほどけて、世界に帰っていきます。つまり「死」です。

私たちも、ある条件のもと、つかの間存在するという意味で、虹と同じです。虹と同じであるならば、私たちの存在もひとつの「現象」であるといってもいいでしょう。

「現象」というと、儚げな印象を受けるかもしれませんが。しかし、その「現象」は、人生においてさまざまな人と出会い輝きをはなつ「現象」です。生きる力をもつ「現象」です。

つかの間現れ、やがて消えるからといって、虹の輝きは意味のないことだと、誰が言えるでしょうか。虹は、見ているものの心をうちます。昔の人々が虹に重ね合わせた龍のごとく、私たちに力を与えてくれます。

私たちも、与えられた時間の一瞬一瞬をさまざまな人とつながり合い、心を込めて生きるとき、輝きをはなち、力をもつ存在になるのです。そして、その輝きは周りの人たちの心を打ち、その力は、誰かの支えとなるにちがいありません。

雨上がりの空の虹は、私たちの存在のありようをあらわしているのではないのでしょうか？。

— 終 —